

「世界文化遺産 縄文遺跡群散策&洞爺湖コース」に参加して (北広島市 家山 正吾)

北海道中央バス(株)が、今年8月より運行を始めた定期観光バスツアーに参加しました。縄文文化を切り口とした定期観光便は道内初とのこと、ワクワクした気持ちでバスに乗り込みました。バス車内は、2座席使用でしたので、大変ゆったりとした乗り心地。

行程は、札幌駅前を午前8時過ぎに出発し、中山峠とサイロ展望台でそれぞれ休憩、そして、楽しみにしていた昼食は洞爺湖畔の温泉ホテルで。おいしい食事と腹ごしらえをした後は、いよいよユネスコ世界文化遺産「北海道・北東北の縄文遺跡群」の一つ「入江高砂貝塚」、北海道遺産の「有珠善光寺」、そして最後にはこのコースでもう一つの世界遺産「北黄金貝塚」をそれぞれ見学し、北海道を代表する山々と雄大な自然環境に育まれた湖、そして太陽の光できらめく太平洋を車窓から楽しむことができた、感動続きの10時間半となりました。

この中で、私が特に気に入ったポイントは、3つ。

1つ目は、サイロ展望台から洞爺湖の大パノラマを見下ろす絶景。1万年以上にわたり、縄文人が採集・漁労・狩猟を基盤に定住生活を築き、高い精神文化を育んだことができたのは、こうした優れた自然環境があったからこそ。ここからの眺めには、ツアーのテーマとの深い関わりを強く感じました。



続いて2つ目は、洞爺湖畔での昼食です。ここでは、縄文人も食べていたであろう貝や魚、獣肉、木の実などを使った全11品を食しました。特に「エゾシカジンギスカン」は、臭みがなく柔らかな歯応えで、「胡桃ソースで食べるローストビーフ」は、細かくすり潰した胡桃が香ばしく牛肉の旨味と調和し、肉好きの私にとって大満足の内容。

最後に3つ目。それは何と言ってもツアーの目玉「入江高砂貝塚」と「北黄金貝塚」の見学です。現地では、ボランティアガイドさんによる解説付きで、熱意に溢れ、わかりやすく説明して下さる姿に、晩夏の日差しに照らされていることも忘れ、どんどん引き込まれていきました。終いには、感動的な心地よさが残り「またここに来たい」と感じさせていただいた次第。

さらに、帰り道の車窓からは、燃えるような夕焼けと札幌市内の都市夜景も眺めることができ、想定外の「おまけ」に思わず得した気分でした。

終点の札幌駅前に到着するなり、「また参加したい」と感じた今回の定期観光バス。「見て、食べて、学んで、感動!」。また来年もよろしくお祈りします。



# 北の縄文

HOKKAIDO JOMONCLUB NEWSLETTER

CONTENTS

- P1 巻頭あいさつ
- P2-4 1周年記念シンポジウムのご報告!
- P5 イベント紹介
- P6 縄文バス旅日記  
編集後記

## 新代表あいさつ



### 北の縄文道民会議

代表 荒川 裕生

札幌大学 理事長  
北海道スポーツ協会 会長  
コープさっぽろ理事会 会長  
認定NPO法人 カルチャーナイト北海道 副理事長  
認定NPO法人 北海道シマフクロウの会 副理事長

昨年の7月27日は、「北海道・北東北の縄文遺跡群」の世界文化遺産登録が決定した歴史的な日となりました。私たち北の縄文道民会議は、まさに縄文遺跡群の世界遺産登録に向けた気運の盛り上がりを目指して設立した組織ですので、この快挙が実現したことの喜びを皆さまと共に大いに分かち合うことができました。

そして1年が経ち、お陰さまで道民会議は設立から10年を迎えました。これを機に、会の正式な名称を、これまでの「北海道・北東北の縄文遺跡群の世界遺産登録をめざす道民会議」から、「世界文化遺産登録の縄文遺跡群と全北海道の縄文遺跡群の活用を推進する道民会議」に改めました。皆さまに親しまれている略称「北の縄文道民会議」は変わりません。

この節目に当たり、道民会議の体制も新たになり、これまで10年間代表をお務めいただいた堀達也元北海道知事の後任として私が就任いたしました。今から20年前、堀さんが北海道・北東北知事サミットで「北の縄文文化回廊づくり」を提唱されたことが世界遺産に向けた取組の原点ですので、改めてこれまでのご尽力とご貢献に深く感謝申し上げます。

世界遺産登録は、一つのゴールではありましたが、同時に新たなスタートです。今後、世界遺産という人類の宝としての価値をどのように発信していくか、それらを活用していかに地域と北海道の活性化につなげていくか、さらに世界遺産以外の道内の縄文文化遺産の価値も広く共有し、この大地と人の歴史をどう未来に継承していくか。北の縄文道民会議は、これまでの官民連携の蓄積を活かし、道民、民間の立場からこうした課題にチャレンジしていきたいと存じますので、皆さまには変わらぬご支援と活動へのご参画を心よりお願い申し上げます。



## 編集後記

- ・今年、北の縄文道民会議は世界遺産登録実現1周年、発足10年を迎えました。7月31日、規約、名称、役員体制を見直し、代表は堀達也氏(元北海道知事)から荒川裕生氏(札幌大学理事長)にバトンタッチされ、当会議は新たなステージへの一步を踏み出しました。今後、世界遺産はもとより、世界遺産以外の「北海道の縄文」の価値も広く共有し、多彩な魅力の発信に向け、会報「北の縄文」のさらなる充実に向けてまいります。(T・H)
- ・「北の縄文展」の設営中、初めて「キラキラ土器」に触れ、心がキラキラしました。(Y・T)
- ・7月には縄文女子旅、9月にはドニワ部さんのイベントでお気に入りの土偶スタンプをゲットして、縄文ライフが充実した夏でした。(U・A)

編集・発行：世界文化遺産登録の縄文遺跡群と全北海道の縄文遺跡群の活用を推進する道民会議  
編集長 谷 紘道 編集委員 梅田 彩加、依田 妙恵  
TEL: 011-221-1122 FAX: 011-221-0117 <http://www.jomon-do.org/> E-mail [ebisutani@chuo-bus.co.jp](mailto:ebisutani@chuo-bus.co.jp)

7月31日、「北海道・北東北の縄文遺跡群」世界文化遺産登録1周年記念シンポジウムが開催されました。基調講演やパネルディスカッション、世界文化遺産登録を迎えた各地の喜びの声についてご紹介いたします。

◇基調講演「ユネスコ世界遺産と縄文遺跡群の役割」

北海道環境生活部文化局文化振興課  
縄文世界遺産推進室 特別研究員 阿部 千春氏

1. 縄文文化とその特徴

縄文文化が始まる前は、旧石器時代と言って人類はマンモスやオオツノシカ等の大型草食陸獣を追いながら遊動的生活をしていました。

しかし、今から15,000年前頃に地球規模の温暖化が始まり、寒冷で乾燥した気候から、温暖で湿潤な気候に変化するなかで、大型草食陸獣は絶滅し、その代わり山はドングリやクルミが実る落葉広葉樹の森に、海は貝や魚が生息する生物多様性に富んだ環境になりました。

こうした環境の変化に対応し、周辺の自然の恵みで定住生活を実現し、発展、成熟させたのが縄文文化です。これは、世界が農耕や牧畜によって定住を実現した歴史と全く異なる特有の文化です。しかも、漆製品等の高い工芸技術、ヒスイの流通に見られる遠隔地との交流、土偶等の精緻な精神文化を有していることも大きな特徴と言えます。

2. ユネスコ世界遺産と縄文遺跡群

世界遺産の目的は、「文化多様性の保護」と「異文化交流の推進」により国際社会における相互の理解を図り、世界の平和に貢献することにあります。これは「平和の砦を心に築く」というユネスコの理念に基づく施策の一つです。

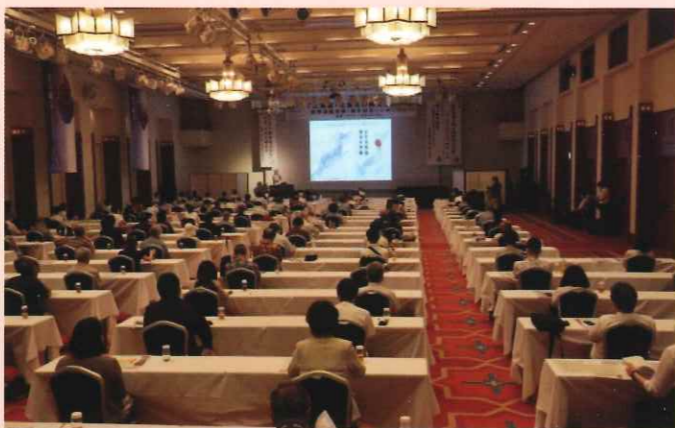
それでは、農耕以前の定住のあり方について、北海道の資産を中心に見ていきましょう。

垣ノ島遺跡（函館市）／7000年前頃

本格的な定住の存在を示す遺跡です。同じ場所で長く暮らすことにより、そこで亡くなった人々のための空間として墓地が造られることになりました。その墓から子どもの足形を押しつけた粘土板が多数出土しています。

北黄金貝塚（伊達市）／5500年前頃

集落を構成する食糧貯蔵の穴や捨て場などの施設が充実してきた時期の遺跡です。貝塚には人の墓もつくり、水場遺構には意図的に置かれた擦り石や石皿が出土していることから、単なる廃棄ではなく、祭祀的な要素を感じます。



◇各地の喜びのメッセージ

函館市（垣ノ島遺跡、大船遺跡）

昨年の登録決定以来、各施設への来場者が増えている。特に遠方からの来場者や団体客が増え、世界遺産登録の効果を感じている。垣ノ島遺跡では、7月27日からデジタルコンテンツが一部供用開始となっているため、より楽しみながら縄文を感じてほしい。

森町（鷺ノ木遺跡）

今年は発掘調査を行っており、土器や石器が400点あまり出土している。ストーンサークルの下には何があるのか、これからの調査に期待している。鷺ノ木遺跡が地元の人に愛され、守り続けられる遺跡となることを願っている。

洞爺湖町（入江貝塚・高砂貝塚）

昨年の登録決定の1週間前に「入江・高砂貝塚館」がリニューアルオープンし、登録後はたくさんの方にお越しをいただいている。現在12名のガイドが登録されており、スキルを磨く講習を行っている。洞爺湖縄文まつりを3年ぶりに開催でき、来場者を楽しんで体験をしていただいた。

伊達市（北黄金貝塚）

例年の2倍ほどの方にお越しをいただいている。今は繁忙期を終え、一息ついているところ。これからも修学旅行生などたくさんの来場者があると思うので、新しくガイドとして活動していただける方を募集している。

千歳市（キウス周堤墓群）

キウスの魅力は墓と一体化した深い森。せっかくできたこの森を守り続けたい。当時の縄文人の生活の痕跡を感じていただきたい



大船遺跡（函館市）／4500年前頃

祭祀場など、集落を構成する諸施設が整った遺跡です。集落の規模が最も大きくなる時期で、集落の人々が使用した土器、石器などの道具類や食料となった魚や動物の骨などを廃棄した盛土遺構がつくられます。貝塚と同様に祭祀的な意味があったと考えられています。

入江貝塚（洞爺湖町）／4000年前頃

一時的に寒冷化が進んだ時期です。竪穴住居は小型化し、集落も小さくなって分散します。貝塚から筋骨縮症に罹った成人骨が出土しています。厳しい生活環境になっても弱者を守る相互扶助の精神が分かります。

高砂貝塚（洞爺湖町）／3000年前頃

冷涼な時期です。胎児を宿した妊産婦の人骨も手厚く葬られた状態で出土しており、集落の悲しみが伝わってきます。

キウス周堤墓群（千歳市）／3200年前頃

円形の竪穴を掘り、その土を周囲にドーナツ状に積んで、竪穴床面に複数の墓をつくる特殊な形状の共同墓地です。直径が80mを超えるものもあり、祖先崇拜の様子が読み取れます。

鷺ノ木遺跡（関連資産／森町）／4000年前頃

北海道最大の環状列石で、生活だけでなく、北東北と同様の精神文化があったことを示しています。景観等の観点から関連資産となります。

こうした、自然とともに暮らした定住生活のあり方は、現代に生きる私たちにも大切な価値があると考えています。

その価値を観光振興はもとより、「持続可能な開発のための教育(ESD)」や「持続可能な開発目標(SDGs)」などの国際的な取組にも活かしていくことが大切ではないでしょうか。

それが「未来へつづく、一万年ストーリー。」になると信じています。

## ◇パネルディスカッション

テーマ 「縄文世界遺産、これからのまちづくりと文化観光を考える」

### ○パネリスト

- ・岩手大学平泉文化研究センター客員教授 八重樫 忠郎氏
- ・DENE株式会社 代表取締役 永原 聡子氏
- ・田辺市熊野ツーリズムビューロー プロモーション事業部長 ブラッド・トウル氏
- ・斜里町 地域プロジェクトマネージャー 初海 淳氏
- ・北海道観光振興機構 政策マーケティング部室長 生川 幸伸氏

### ○進行

北海道環境生活部文化局文化振興課

縄文世界遺産推進室特別研究員 阿部 千春氏

世界遺産登録がされてから1年がたったことを受け、ユネスコ世界遺産を活用してどのようなまちづくりができるのか、縄文を活用してどのような文化観光が可能かを考えるパネルディスカッションを行いました。パネリストからの様々な事例紹介や意見発表により、考えが深まりました。



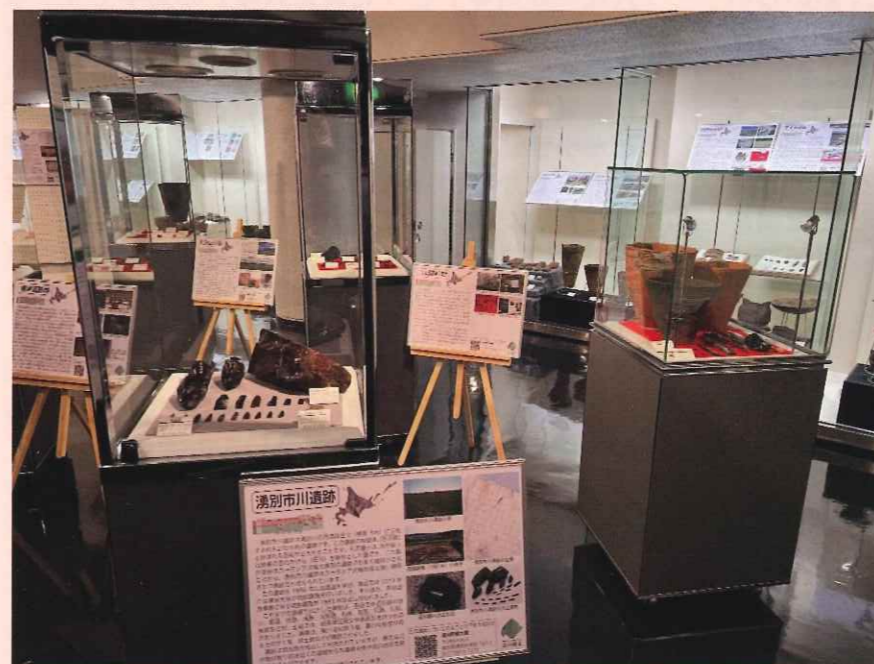
そのほか、様々な団体の活動をPRするブースを設け、約150名の来場者の方々にご覧いただきました。



縄文時代の人々は、一万年以上もの長い年月のなか、環境変化に巧みに適応しながら、狩猟・漁労・採集を基盤に自然と向き合い、持続可能なライフスタイルを実現しました。また、本州が稲作を基盤とした弥生文化に移行した後も、北海道に暮らした人々は縄文的な暮らしを守り続けました。

北の縄文展は、道内各地の教育委員会からご協力をいただき、厳しくも豊かな自然のなかで育まれた「北海道の縄文」の価値に光を当て、その価値を「ストーリー」として、多くの方々にお伝えするために開催するものです。

北海道のロングロングヒストリーをぜひ感じてみてください。



◇釧路（10月29日（土）まで）

場所：釧路市立博物館

（釧路市春湖台1-7）

開館時間 9:30~17:00

（休館日：10月10日を除く月曜日、最終日は12:00に終了いたします）

◇網走（10月30日（日）から  
12月1日（木）まで）

場所：北海道立北方民族博物館

（網走市字潮見309-1）

開館時間 9:30~16:30

（休館日：11月7日を除く月曜日、11月29~30日、初日は13:00開始、最終日は12:00に終了いたします）



### 縄文セミナーのお知らせ

「北の縄文展2022in 釧路・網走」の開催期間中、「北海道の縄文」に関するセミナーを開催いたします。みなさまのご参加をお待ちしております。

#### ◇釧路会場（対象：大人の方）

日時 10月15日（土）14:00~16:30（定員50名・要申込）

内容 阿部千春「世界遺産になった北海道・北東北の縄文遺跡群」

（北海道環境生活部文化局文化振興課縄文世界遺産推進室 特別研究員）

村本周三「北海道・北東北の縄文人は何を食べていたか」

（北海道環境生活部文化局文化振興課縄文世界遺産推進室 主査）

澤田恭平「海・山こえた亀ヶ岡式土器

～大昔のくしろ人は、道南・北東北の縄文に何をみたのか～」

（釧路市博物館 主査）

#### ◇網走会場（対象：小学校高学年を対象とした内容ですが、児童、生徒、一般を問わず参加可能）

日時 11月12日（土）1回目：10:30~11:30 2回目：13:00~14:00

内容 藤原秀樹「縄文時代の北海道・北東北」

（北海道教育庁生涯学習推進局文化財・博物館課 課長補佐）

村本周三「身近な縄文時代の遺跡」

（北海道環境生活部文化局文化振興課縄文世界遺産推進室 主査）

セミナーの最後には縄文土器に触れる体験ができます。